

## 大変だった経験：アフガンの難民と話す

ジエセニヤ・ローマン

去年の10月、ボランティアの経験しました。教会堂でアフガンの難民と話したり、ランチを提供したりするようなボランティアの経験だそうでした。教会がそのようなことをするのが初めてだったが、多くの難民は家族や友人を失い、街のあちこちに散らされて、アメリカの隣人と知り合うことに困っていました。

もちろん言語や文化の壁がありました。誰もわからなかったインドの方言を話したので、しゃべりやすくなかったです。それに、交流の仕方についての習慣がアメリカの習慣と違います。たとえば、女性は、男性が話している間に話すのが失礼だと思われています。そうして、男性の難民に直接話しかけないよう気を付けました。

私が座ったテーブルで他の女性が一人しかいませんでした。その女性は誰にも交流したくないようだった。声をかけると、話してさえくれませんでした。逆に、存在を認めるように首をかしげるばかりなので、話しかけてみることを続けるのは丁寧じゃないと感じたから、あきらめました。もっと考えてみると、英語が苦手なようで、それが話さなかった理由かもしれません。その難民が一週間に一回しか英語のレッスンを受けてなくて、常勤して、大きい家庭を養っていたらしいですーそのように考えたら、なんだか罪悪感があります。特に日本語が勉強している人として、その女性と何度も英語で会話を始めるなんてことで、緊張にされたでしょう。

先にもっとアフガンの文化について調査すればよかったのと思います。さらに、女性の難民が特に静かにしていたことに気が付きましたから、女性が自由に話すために男性と女性

を分けたほうがいいと思います。正直、つまらなかったんですが、難民の生活を知ることができてよかったです。